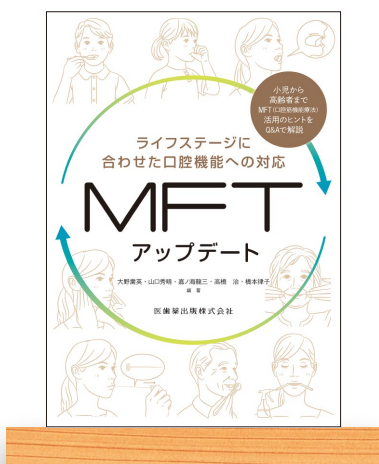


MFT 臨床をいまより一歩ステップアップさせるための臨床家必携の一冊！



ライフステージに合わせた口腔機能への対応 MFT アップデート

大野隼英・山口秀晴・嘉ノ海龍三・高橋 治・橋本律子 編著

A4判/168頁 定価7,344円：本体6,800円＋税
医歯薬出版（2018年12月）

(公社) 日本歯科衛生士会会長
評・武井典子 (歯科衛生士)



歯科衛生士法が制定され70年が経過しました。近年では、日本の歯科衛生士の就業者数は12万3千人を超え、いまや日本は米国に次ぐ世界第2位の「歯科衛生士大国」となりました。この背景には、少子高齢化や疾病構造の変化に対応して、歯科衛生士業務が保険診療で評価され、国がしくみを整えてきたことがあります。

歯科衛生士のおもな就業場所は、歯科診療所が90%以上ですが、いま、歯科診療所の歯科衛生士の果たす役割が大きく変化してきています。歯科診療所は「かかりつけ歯科医」として患者さんの生涯にわたる継続的な口腔健康管理を担っています。齲蝕や歯周病の重症化予防管理により、生活習慣病のリスクを低減し、健康寿命の延伸に貢献することが重要になっていま

す。そうしたなか、診療所受診者の40%以上が65歳以上となり、診療所の歯科衛生士も全身管理や医科歯科連携が必要となりました。さらに、地域包括ケアシステムの構築が急がれるなか、診療所から地域に出て、多職種と連携しながらその専門性を発揮することが求められています。今後ますます、「口から食べる幸せ」を支援することが、すべてのライフステージにおいて必要かつ重要となってきます。

このような背景より、2018年4月の診療報酬の改定により、子どもの「口腔機能発達不全症」や成人・高齢者の「口腔機能低下症」の管理加算が新設されました。筆者らの調査においても、「ろうそくの火が消せない子ども」や「いつも口が開いている子ども」が一定数存在することがわかっています。さらに、高齢者の口腔機能の向上が、軽度認知障害(MCI)の予防につながることも確認しました。これらのことから、高齢期における介護や認知症を効果・効率的に予防するためにも、子どもの時期からの口腔機能の育成がきわめて重要となります。

このようななか、『ライフステージに合わせた口腔機能への対応 MFT アップデート』が発行されたことは、誠に時宜を得ています。本書はライフステージ別の口腔機能に関する諸問題をQ & A形式で取り上げて、口腔機能をどのように評価し、どのように育成・訓練していくかをわかりやすく解説しています。そして、MFTを筋肉の動きや解剖学的な視点からも解説しており、臨床に役立つヒントが満載です。本書は、歯科臨床の現場において、発達段階の違いや異なるライフステージにある、すべての人々の口腔機能を高めるための大きなヒントになると思います。今後、多職種との連携や歯科衛生士としての専門性の確立、そしてそれらをとおした社会への貢献のためにも、本書を熟読することをお勧めします。